



## 補習校で耳にした日本語(その2) ~ 「予め予習を」 ~

「みなさん、次は大事なところだから予め予習をしてきてください。」

授業の終わりで、先生が子どもたちに促しました。意味は通じますが、何か変です。きっと私自身も知らず知らず、このように言っていたかもしれません。「予め」と予習の「予」の意味が重なっており、繰り返し使っています。重言(重ね言葉)です。

上の言い方に限らず、重言は、日常生活の中でよく耳にします。代表は「頭痛が痛い」「馬から落馬する」でしょうか。外にも「英国に渡英する」「日本に来日する」や「後で後悔する」「骨を骨折する」「必ず必要だ」などがあります。これらは、漢字を繰り返し使っているのですぐに気づき、違和感を覚えます(「違和感を感じます」と言わなくてよかった)。

漢字の繰り返しがない重言もあります。「毎土曜日ごと」では「毎」と「ごと」が、「まだ未提出の人」では「まだ」

と「未」が重なっています。「古来から」も「来」と「から」が重なっています。これらは漢字の繰り返しはなくとも、和語と漢語の意味の重複があります。さらには「今の現状」もそうです。漢字の繰り返し、和語漢語の意味の重複はありませんが、「今」と「現」は意味が重なっています。

上記の例は決して適切な表現とは言えませんが、一方で、日常会話の中で大きな違和感なく使用されている重言もあります。

「〇〇さんは、今日一番最初に教室に入ってきました」や「それぞれの列の一番最後の人は手を挙げなさい」では、「一番」と「最初」や「最後」の「最」が重なっています。しかし、学校ではよく耳にする言い方です。大きな違和感をもたないのは、「一番」がその意味というより、「最初」や「最後」を強調するような役割として使われているからと考えることができます。

また、学校では音楽の授業で「歌を歌います」と言ったり、運動会で「踊りを踊ります」と言ったりします。「歌を歌う」の「歌」と「歌う」は言葉の繰り返しのように思いますが、「歌」と「歌う」の意味が異なります。「sing a song」と、英語に言い換えると分かりやすいと思います。「踊りを踊る」はどうでしょう。英語では「dance a dance」とは言わず、「dance」ですみます。日本語では「踊る」です。しかし、「踊る」と「踊りを踊る」とではニュアンスが異なります。「『踊り』をする」とも言いません。「踊りを踊る」以外に、ピタッと代わる別の言い方がないから、このような言い方をするのかもしれませんが。

先週は子どもの発言から、今週は講師の指示から、考えさせていただいたことを紹介しました。言葉っておもしろいなあと、改めて気付かされます。

これまでこの「くろいどんニュース」に、補習校で言葉(日本語)について考えさせていただいたことを述べてきました。今回、それらを集めてホームページに掲載することにしました。時間のある時にお読みいただき、お子さんとの話題の一つにするなどして、お子さんの言葉(日本語)に対する興味を高めていただければ幸いです。



〈ある日の授業から〉